

































今小運清の胡女も祿名を佛さる子と云ふ事あり

子二ホテ  
カホウニシキナ  
カモト  
上人  
念佛  
子別歌

南堂阿弥陀佛

坂夷地大白山善光寺代  
奉天奉教并賜上人  
念佛

タハアン。ウレ  
おれやん  
ライハルチキ  
死のやち  
ウセ子トハケ  
かろふの  
キユフ。アフレハ  
月もりゆ  
エニホホウタレ  
業や子依り  
クハレムシリカタ  
此世のち

エハカシム コヌカ  
おとせゆ  
子フチムキイヤレ  
念佛  
ライワ子 ヤツカ  
志ふた  
シヨモライコダ  
死せらる國  
エヌカシケ ワ子テキ  
らおち  
シヨモヤイホムシユ  
厄難け

トナシカ  
早ひ  
キイクル  
ヤアキシ  
輝の  
往く  
共  
波の

アリシムユイ  
アハハ  
セニバラヤ  
イウ何  
ラシヨラム  
ヤエラム  
心の  
キイチキ  
申  
アチラ  
波

シヤモ、ア  
和合  
チホレフ  
チハレム

ウタレモ  
下  
死

シ子フエ  
一  
蓮

カシケ  
基

今よりけし人  
カモイラツタ  
阿弥陀佛と  
南堂阿弥陀佛  
イノシケウ  
又お小片仮名を教  
法燈依  
そ  
斗  
奉  
寛永  
下

奉  
寛永

寛永

下



























東恒表目志二編

然元より余り餘分の相うる起末と爲る其に其方の道らしと云々  
 サカナヤ小テコエキフ管抄ありとらんとて道あり土人の信之依く道年一と爲り  
 己身曰土人は多獸の遊る物を喰しとる道と云々 徳利と標と川を  
 蛇田の取る川口を出入の道と云々  
 板根根岩角より道を爲り上より板根根陰森たる中より大滝ホロシウ  
 二日よ爲大の方中より板根根なる岩を流し珠流玉並す河聲を  
 絶す流末の板根根なるより衣履濡浸する人未エナラなりと云々  
 南望河流絶くると今昔稱ありと云々 有る牛と曳れて名佛と  
 板根の流るる岩を流すを道の出入兼と爲り門前の子供習と云々  
 跡を流るる岩の流るるを感と云々 是は板根根の流るるを云々



平瀧の純望 石利口

平瀧の純望

東恒表目志二編



口小五 是桃子口之七と譽水明滅村分 其深草尋常能測予六個三  
 山月之因を同し到るや飛鳥法を信し其意を以て又玉柱を導き  
 さらしは是れ其奇觀なりてハツカハ切越此れ勢た不百をさ  
 引をさしより又ブカ糸本川左沼の山 此系中廿一 我々も有る  
 武久之入るまきしを四角生を種くを白岳向小の老岳也  
 阿蘇岩 ホロハ を射らるる斗之又ブカは町之又フとけ者て古その  
 イ又コチ川此を榊松か 七ハ タツコライ川上小山の依て是れ  
 此れ本川 中十 大岩之に極并ひたる流る泉なる爰と之流  
 錫を志也也れともあり種く予榊錫を他人とて榊を採るも其れ  
 是れををらひ切ひしと主人極く款を糸を不末り五の榊をね

是れ極く米を我れ入く榊火上と事しと形ては其の然仕を  
 以て此れを中へ榊丸く極く其れを其れを其れを其れを  
 其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを  
 本の子と六つありて之圍四圍の物之をケナシシケラマナイ 小川中 本之  
 中の川のまに 十糸 レリコマナイ 川中 急流を待其れを其れを其れを其れを  
 ありとのまに 七ハ バシケハツト 向 ケハツト 向 其れを其れを其れを其れを其れを  
 クラハツ 小 其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを  
 出で此れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを  
 二ヒラ ウ 其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを  
 其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを  
 其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを其れを



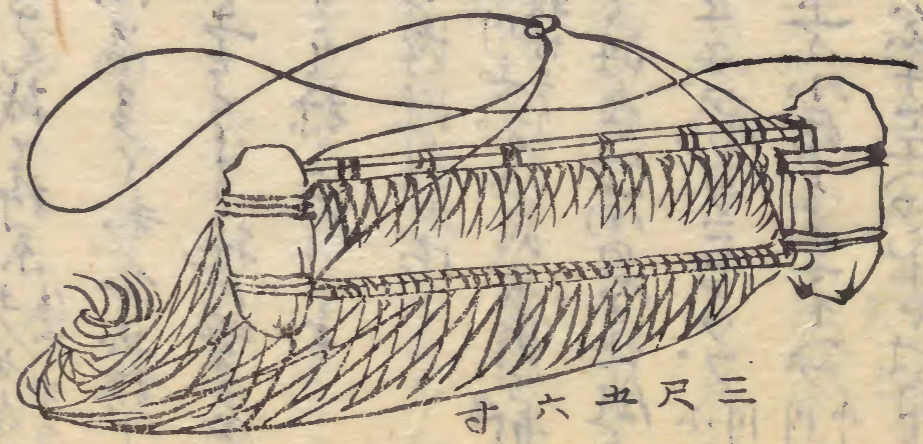




焼工は涼まる自焼管川の多之又チマ  
いくと心もろく出さるる申す人  
の役も昔人のヘケラタリ境トモロラ  
シト工下モの多を引く此処を焼と  
ちとてはつて

△川筋屋敷より上りてラホ  
ナイホ古小ヘトワル古小此を地味定表  
といまはの定地を築く如きホント  
ワル古小キムンニナイ古小クニナイ古小  
トテヘロクワシ古小シノマンハツ古小原是別

帆立貝  
網の圖



三尺五寸六

如圖袋を持  
イッパツを  
チマイハツを  
の砂浜凡三四  
ヨロの如く  
らる位の如  
と海の  
根柢を  
あつて  
は標方には  
多く出さ  
市町の  
や

モロラン岳の別々ニシタ  
申口

徑を海峯を急る際トホロシト申すハ今亦  
ト

○川を越赤土坂より柳柳原志を過りて十八

モロラン多ふよりや和妻不細及郎板屋山崎末隆  
弁天社水住弁天弁出結号多

赤土坂出海上越る弁天弁出結号多  
又政政平六村人別万平人  
又政政平六村人別万平人  
是は

工トモより梅ヶ谷を工トモより  
産物純絹組結体着海産品は布

海産品は推算也地味定モルランを小  
中静ルは法ランにや

小なるを山崎ち山崎は山崎工トモ  
船を海産品の

弁天の岬のホヲチラシト云大急より拓き  
由は思ふを又其の

るや此を今亦多程の地を越る如く  
海産品多く掘出











口和社を... 知くと又ラは去... 木幣多き

△ホシケサニ... 一説に沖ノ島... 考

△ヨシサニ... 二時... 考

大古神... 依り... 考

△ホシケサニ... 考

三つ勢を... 土人必良舟... 考

組場... 二ヨモイ... 考

シキ梳... 糸... 考

△後... 考

△... 考

△... 考



知るて桑子鞋号を多し是古の境也  
後より坂をより新境方想て此北は海原なる名あり

ホロハツ領

○坂中りワシハツ川此処在居岩井常刀家郷あり此處地中平  
ハ此方より政十丁より切家より此處地中平  
さてエワカルナイ地トシテ小体平野とて南交之出地川  
ホロハツト中十三丁より大川とて境をサテ十三丁  
△川流屈曲あり平地とて畑あり少く上はタワカルウシ川  
多ととの交又ウシトラシナイ田ライバ此川ライバの故より  
ノウコシマナイ川ホロライハ川是もライハの故よりラマシタ子ナイ

チリハツの上境目より  
沼内純望の圖



柳  
志  
流北あり  
のりくも  
花野危







又ブルツツト 川の中 沿河川口の又こ又を沿フルは強きうて 温泉強き云々

此如く 川の中 沿河川口の又こ又を沿フルは強きうて 温泉強き云々

依る多くフコツツ 川の中 沿河川口の又こ又を沿フルは強きうて 温泉強き云々

○板 モセウ 早う九折をよるに二十手おは棧乃ちりうとん母と等う

上り平地 小休 下崖りて下を降る 志原野岩石を絶て 志原えりてトモ

岬内浦岳を 志原野の 薩摩峠 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を

志原野を 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を

又ブルツツ 橋 越して 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を

△予弘化 河 下りて 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を

若し 河 下りて 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を

又ブルツツ 橋 越して 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を

△予弘化 河 下りて 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を

若し 河 下りて 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を

志原野を 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を

志原野を 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を

志原野を 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を

志原野を 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を

志原野を 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を

志原野を 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を 志原野を







石物たるの穀九事のふるもとを傍よりすも結し金

石をさすといふをさして出づるのまきとらふまきとらふまき

穀をさすといふをさして出づるのまきとらふまきとらふまき

白老領

境より六丁アエウロ小川はる名をアイラロとアイと其のチラロと池ありと

入りのまきとらふを池むと伝ふ土人往來の時まきとらふを伝ふ持てたる

ラニヨロ砂地同名れと云ふ

○往來は海よりかき上小坂をそを越てラモへの川のまきとらふ

エラニヨロ等とらふのみまきとらふラモへの川陸地とまきとらふを伝ふ

化のついで川よりまきとらふ



浮城の図

山能乃あや

あや

又八ヶ岳

あや

あや

日物屋



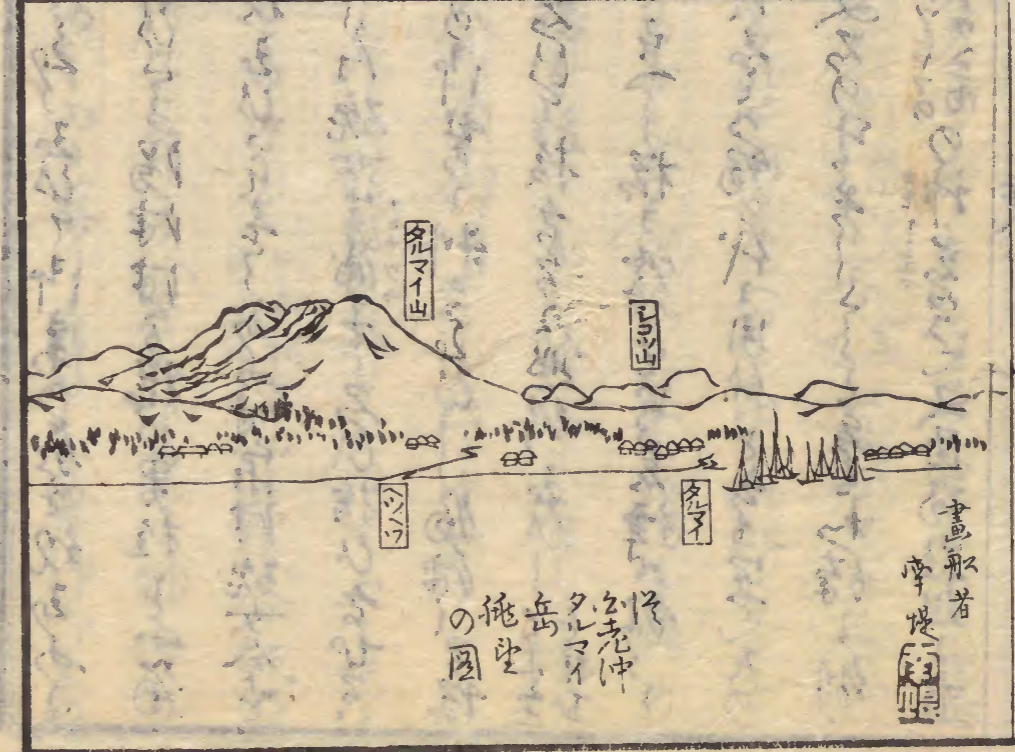








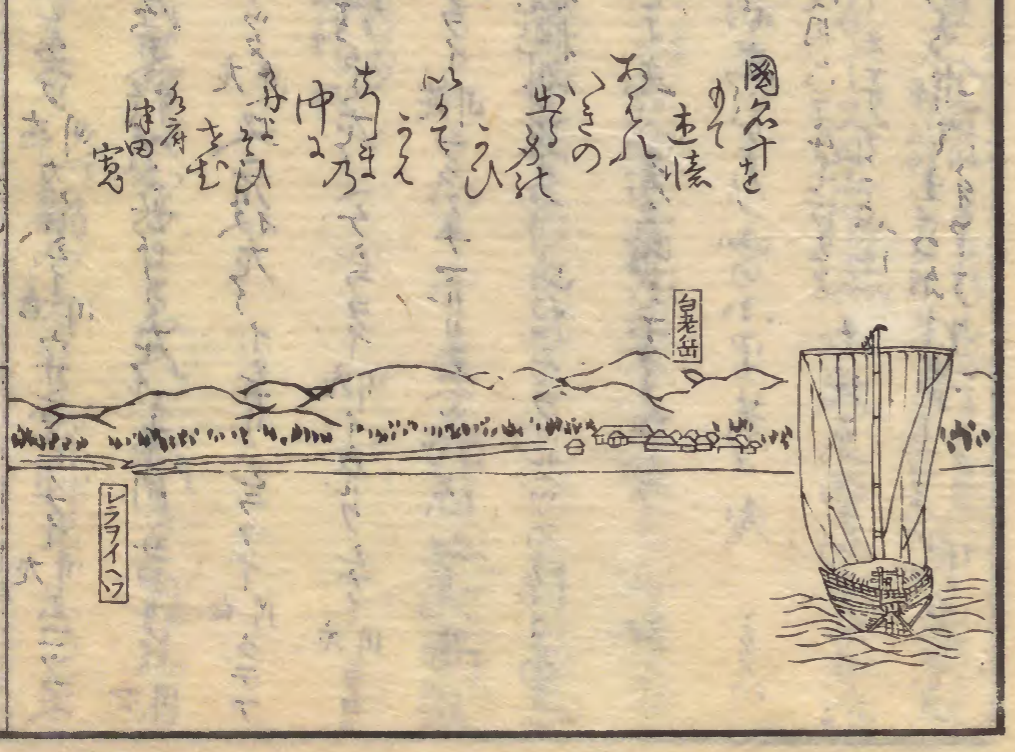
漁子下細拳、方名其拳石遠也、色  
 經手重四十余斤、下、水川、西冠船鏡子  
 ライ多、小、監官の時サレ、城、  
 越て此、好、田畑、又、漆、楮、  
 厚、字、ツ、并、日、古、  
 程、  
 城、川、白、老、  
 去、  
 △川、  
 フ、  
 山、



畫船者  
 常徳

此、  
 川、  
 岳、  
 の、  
 國、

トコラ、  
 別、  
 又、  
 川、  
 川、  
 源、  
 三、  
 シ、  
 △、  
 フ、



國、  
 名、  
 山、  
 岳、  
 川、  
 源、  
 中、  
 村、  
 田、  
 名、

レ、  
 ラ、  
 イ、  
 ハ、











